第５回 名古屋大学 海外留学シンポジウム

岩　城　奈　巳

１．はじめに

留学生センター海外留学室では，2009年より「海外留学シンポジウム」として，毎年，学内外の留学経験者や留学に携わる企業や団体の担当者を招聘し，シンポジウムを開催している。今年で５回目となるシンポジウムは，留学先として人気の高い欧米への留学と現在経済発展が著しいアジアへの留学に焦点をあてて，欧米留学とアジア留学の経験比較をテーマにして開催した。特に，アジア留学が現在注目されている理由を参加者と発表者で考え，議論を行った。

２．プログラム概要

タイトル：「留学するのは何のため？
　　－欧米とアジア留学の経験比較から－」
日　　時：2013年３月19日（火）
　　午前９時30～午後12時30分
場　　所：文系総合棟７階　カンファレンスホール
参加人数：約65名

－式次第－
挨　拶：渡辺芳人　名古屋大学理事／副総長
第１部：名古屋大学学生　留学体験発表（交換留学）
　発表テーマ：
　　その留学でしか得られなかったもの：Story Abroad
　　ガジャマダ大学（インドネシア）
　　梅村亜希　経済学部３年
　　コペンハーゲン大学（デンマーク）
　　青木雅弥　理学部４年
　　シンシナティ大学（米国）慶熙大学（韓国）
　　杉江良祐　工学部４年
第２部：講演　株式会社ディスコ　奥村倫也
　講演テーマ：
　　企業のグローバル人材ニーズと留学生の就職トレンド
　　～アジア時代を生き抜く人材になるために～
第３部：パネルディスカッション（発表者全員）
　ディスカッションテーマ：
　　欧米留学とアジア留学の経験の違いについて
　　何のために留学をするか／留学経験者に問われること
　　（ファシリテーター：
　　海外留学室　星野晶成　特任助教）

３．事業内容

冒頭，渡辺理事より，大学在学中に留学することの意義，そして今後の名古屋大学の国際戦略や国際化の展望ついてお話を頂いた。

第一部では，「その留学でしか得られなかったもの：Story Abroad」というテーマで，留学経験のある名古屋大学生３人の留学体験発表が行われた。発表者は，語学向上や異文化体験以外の＋αの留学目的として，具体的に何を達成して来たのかを発表してくれた。

インドネシアのガジャマダ大学に留学した梅村亜希さんの留学の目的は，新興国の経済発展を学び，現地に進出している日系企業の経営方針を調査することであった。この目的をもとに，現地での病院視察等を行った結果，経済発展する影に，日本とは比べ物にならない格差が存在する事がわかり，「格差社会」の現実を自分の目で確認できたことが大きな収穫であったと述べた。

デンマークのコペンハーゲン大学に留学した青木雅弥君は，学校教師を目指す通過点として，あえて非英語圏を留学先に選択した理由を発表した。日本とは全く異なるデンマークの教育制度において，文化や人がどう違ってくるのかを実際に住んでみて確認することを留学の目的としていた。それは，実際に生活することで，デンマークの文化を日本の文化と比較し，将来教師になったときに自分の教育現場に取り入れる土台を構築したかったからだと述べた。青木くんは受講授業を通して教育制度について学び，教育現場を観察してきた。その結果，教育理論の違いやデンマークにお

ける人間性重視の教育政策が自身のキャリアパスに役立つことを認識できたという。

米国シンシナティ大学（交換留学）と韓国慶熙大学（夏短期留学）に参加した杉江良祐君は，当初の交換留学の目的を，国内大学院進学か海外大学院進学かを見極めるための留学として交換留学を位置づけて米国に留学したと言う。そのため，国際学会や英字論文において求められる英語力とコミュニケーション能力を養うことを目的としていた。また，交換留学終了後に，韓国で行われた短期留学（使用言語は英語）に参加した。プログラムに参加し，アジア圏の学生の英語能力の高さに驚いたことと，アジアでも英語で学べる環境が整っていることを認識したと述べた。

第二部では，人材育成や留学経験者に企業の採用情報を発信している株式会社ディスコの奥村倫也氏が，「企業のグローバル人材ニーズと留学生の就職トレンド　～アジア時代を生き抜く人材になるために～」という題目で，現在のアジア留学と企業視点から見た留学経験者について講演を行った。

まず始めに，企業の採用傾向がグローバル化しており，優秀な日本人留学生と外国人留学生の人材採用の需要が高まりつつあることを自社の調査をもとに，説明してくれた。このような人材を一般的には「グローバル人材」呼び，大学も企業もこのグローバル人材に目を向けていることを確認した。このグローバル人材育成が重要視されている中で，アジア諸国に精通する人材が必要となっているという。その理由は，「巨大

な人口」,「中間・高所得層の増加」,「若い人口層」といった，今後大きく経済発展に繋がる可能性を有しているアジア市場へ世界の企業が進出しているからだと言う。そのため，ビジネスの拠点が欧米からアジアへ移行していることと，実際日系企業がアジアに進出している事例をふまえて，アジアに精通する人材を企業が欲していることを説明してくれた。また，英語が使用言語となりつつあるアジアで，英語の多様性の観点から，今後はアジアの英語がグローバル英語になる可能性も述べてくれた。

第三部では，学生発表者と奥村氏を混ぜて,「欧米留学とアジア留学の経験の違いについて」と「何のために留学をするか / 留学経験者に問われること」について，パネルディスカッションを行った。すべてのパネリストに共通した意見は，留学する国によって経験の優劣が決まるのではなく，留学する本人が，何を目的にその国・大学に留学するのかで，経験の幅と深さが決まってくるということであった。また，何のために留学するのかという問いには，学生パネリストは交換留学などの比較的長い留学の場合は，自分のキャリア・将来像に直結させるような留学が望ましいという一定の理解があった。そのためには，留学を最終目標とせず，留学を小・中目標としてとらえ，留学で得た経験をどのように活かしたいかをしっかり考える必要があるというパネリストの意見があった。

４．終わりに

今年で５回目を迎えた「留学シンポジウム」は，認知度も高まり，留学に興味を持つ学生にとっては，貴重な留学の情報源となっているようである。シンポジウムテーマも毎年多様化してきているので，今後は学生のニーズをしっかり調査して，学生が持つ留学の疑問を解決できるような内容にしていく必要がある。また，留学フェアなど学生主体のイベントと内容が重複しないように，留学シンポジウムでは，学生の体験談ばかりに焦点を当てず，学術的内容や企業からの視点を取り入れるなどして，情報を提供していきたい。